

学年	高校2年	教科	理 科	科目	物 理		単位数	5
教科書名		物理（数研出版）			副教材名	改訂版 リードα 物理（数研出版）		
コース・クラス		選抜・N進理系						

I 目標

教科書の各設問に解答できることに加え、3年次に行われる基礎学力到達度テストにおいて6割以上の得点を挙げられること。

物の理に興味関心を示し、各現象において簡単な説明ができること。

II 授業のねらい

物理の各単元で学習する内容では、身の回りに起こる様々な現象を思い描く。

それらの現象を様々な公式（理論）を用いて検証し、使えるようになる力を養っていく。

III 授業の進め方

単元ごとに、概論を説明してから演習をしていくというサイクルの繰り返して授業展開をしていく。

授業演習で理解したものをさらに実力にするため、課題を解くことによって身につけていく。

単元学習終了毎に基礎学力到達度テストでの出題を解答していくことで、出題の傾向を身につけていく。

IV 学習上の留意点

授業には積極的に参加し、質問があればその都度質問をすること。

課題は必ず提出し、自分の実力を確実に身につけていくこと。

課題以外にも、自ら積極的に演習問題の解答を繰り返し、問題に慣れていくこと。

数学で学習する内容は必ず定着させ、物理で利用できるようにしておくこと。

V 定期試験

年間5回実施。

内容は授業に準ずる。

VI 評価の方法

定期考査、小テスト、提出物（課題プリントや実験レポート等）、授業態度を総合的に評価する。

VII 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	1編1章 平面内の運動 平面運動の速度・加速度、落体の運動	小テスト 中間試験 期末試験	基礎内容の完全定着と物体の平面の曲線運動の速度などがベクトルで表されること、斜方投射及び剛体のつり合いについて理解する。 物体が衝突や分裂をする際の運動量、力積、運動量の保存などを理解する。 円運動、単振動など物体に働く力の大きさや向きが一定でない運動について、それらの規則性を理解する。
	5	1編2章 剛体 剛体にはたらく力のつり合い、合力と重心 【実験】棒のつりあい 【実験】重心の求め方		
	6	1編3章 運動量の保存 運動量と力積、保存則、反発係数 【実験】反発係数の測定		
	7	1編4章 円運動と万有引力 等速円運動、慣性力 【実験】ばね振り子の周期の測定		
二学期	9	単振動 【実験】単振り子の周期の測定 万有引力	小テスト 中間試験 期末試験	理想気体と実在気体の違いを認識し、理想気体に関しては、各法則から条件によって変化する振る舞いを理解する。 円運動 → 単振動 → 波動の繋がりを認識できること。 水面波の波動現象を観察、実験を通して調べ、波の伝わり方や干渉、回折などについて理解する。
	10	2編1章 気体のエネルギーと状態変化 気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化		
	11	【実験】ボイルの法則 3編1章 波の伝わり方 波と媒質の運動 正弦波の式		
	12	波の伝わり方 【実験】水面波の干渉 【実験】水面波の反射と屈折 【実験】水面波の回折		
三学期	1	3編2章 音の伝わり方 音の伝わり方、音のドップラー効果 【実験】音の干渉 【実験】ドップラー効果	小テスト 学年末試験	音などの波動現象を観察、実験を通して調べ、波の伝わり方や干渉、回折などについて理解する。
	2	3編3章 光 光の性質、レンズと鏡、光の干渉と回折		
	3	【実験】凸レンズの焦点距離の測定		

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。